

目次 contents

- P1 ■令和2年度県民の日記念式典
■第52回シラコバト賞表彰式
- P2 ■地域活動実践者の紹介
特定非営利活動法人クッキープロジェクト
■埼玉150周年プロジェクト
始動中!
- P3 ■市町村コミュニティ協議会の
取組
- P4 ■会員紹介

令和2年度 県民の日記念式典

去る11月14日（土）、埼玉会館（さいたま市）にて「令和2年度 県民の日記念式典」が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、知事表彰や小中学生の絵画・作文コンクールの表彰と併せて、彩の国コミュニティ協議会主催のシラコバト賞の表彰が行われ、受賞者の代表に当協議会会長 大野元裕 埼玉県知事から賞状、副賞の楯が授与されました。



以下の感染拡大防止策を講じながら開催しました

- ・マスクの着用
- ・客席の千鳥配置
- ・検温、消毒の実施
- ・少人数での記念撮影



埼玉県マスコット「コバトン」

第52回 シラコバト賞表彰式

シラコバト賞は、日頃身近なところで、住みよい地域社会を実現するため、積極的な実践活動を続けている個人や団体の功績を称える表彰です。令和2年度の受賞者は、個人133、団体53の186件でした。受賞者を代表して4名の方に登壇していただきましたので御紹介します。

心のふれあいを深める活動

おりづる同好会(戸田市)

折り紙で楽しく明るい地域社会をつくることを目的に、高齢者施設で折り紙教室などを行い、地域福祉の推進に寄与しています。



※平成28年の活動の様子

健やかな心身を育てる活動

山崎 裕以 氏(白岡市)

健康料理教室などを通じて、地域の人と交流しながら食の大切さを伝え食生活の改善を図り、地域の健康増進に多大な貢献をしています。



住みよいふるさとをつくる活動

新井 宏司 氏(飯能市)

地域の人から親しまれている河川敷の草刈り作業や、河川のごみ拾いを行っています。



郷土を知り、郷土を想う活動

錦乃原櫻草保存会(さいたま市)

講習会や櫻草フェスティバルを通して、終戦前後に開墾され消滅した桜草自生地「錦乃原」の再生や錦乃原櫻草園の管理をしています。





特集 地域活動実践者の紹介

特定非営利活動法人クッキープロジェクト

こんにちは。私たちクッキープロジェクトは'07年から授産製品の商品開発や販路拡大に取り組んで来ました。福祉関係者だけでなく、シェフやデザイナー、会社員が「ませこそ」になって勉強会を開き、販売会を重ね、'17年1月には埼玉県立小児医療センター内に初めての常設店「おかし屋マーブル」を開店。患児やご家族に福祉のクッキーや雑貨を届けています。

'20年3月には、ごはんも食べられるクッキー屋「マーブルテラス」を北浦和にオープン。福祉農園の野菜を使ったランチや、障害者が働く焙煎所の珈琲を提供し、いろんな出会いが生まれ、ほっとくつろげるカフェを目指して運営しています。支えているのは、若者やシニア、障害者など多様なボランティアの皆さん。

コロナ禍の今、会食は控えるべきですが、友との語らいも心の健康には欠かせない栄養です。スタッフの体調管理、衛生管理につとめ、常時換気などの感染防止対策を行っています。暖かい日にはテラス席も利用していただきたいです。



▲HP QRコード



また、イベント等販売先が激減した作業所のクッキーを詰め合わせた「なかよしギフト」のオンラインショップも始めました。ステイホームで会えないあの人を想う気持ちを、福祉のクッキーで応援できればと考えています。

私たちの活動は、会費の他、広告協賛やクッキーのノベルティ活用など地元企業のCSR活動に支えられています。障害者と企業の出会いの橋渡し役となり、「おいしい」で社会をつなぐ方法を模索しています。

特定非営利活動法人 クッキープロジェクト

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤10-21-9 コミュニオンときわ1F
電話 048-717-1689 (菅原・谷居・若尾)

～2021年は埼玉誕生150周年！埼玉の魅力を県内外、そして未来へ～ 埼玉150周年プロジェクト始動中！

埼玉県は廃藩置県により1871年11月14日に誕生しました。それから歳月を経て、今年2021年には本県が誕生して150周年を迎えます。

その節目となる年に、埼玉に関わる全ての皆様とともに、埼玉県の魅力を県内外へ発信していくため、県では、埼玉を「知る」「祝う」「伝える」の三つのコンセプトの下「埼玉150周年プロジェクト」を展開しています。

こころ、咲いたまま。

SAITAMA

150

150th ANNIVERSARY

知る 埼玉150周年特設WEBサイト「Colorful」



▼詳細はこちら



埼玉の歴史・偉人紹介や著名人のインタビューなど多彩なコンテンツが盛りだくさん！

祝う 埼玉150周年1年前イベント



昨年11月14日の県民の日には、オンライン配信も活用したイベントを開催。

伝える 県民参加型キャンペーン



SNSを通して動画やポスターの出演者を募集する参加型コンテンツを展開。

まだまだ、埼玉誕生150周年を盛り上げる企画が!?



埼玉に関わる企業・団体とともにイベント開催や商品開発など展開。



市町村コミュニティ協議会の取組

彩の国コミュニティ協議会では、市町村協議会が行う共助社会づくり事業に対して助成をしています。今年度の助成事業について、一部御紹介します。

花いっぱい運動(松伏町コミュニティ推進協議会)

松伏町コミュニティ推進協議会は、ふれあい豊かな地域社会を創造し、町民のコミュニティ活動の推進を図ることを目的として平成7年に設立されました。

主な事業としては、花いっぱい運動、町民祭りの参加等を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人と人が気軽に触れ合える地域活動が大きく制限され、町民祭りに訪れた方々に鉢植えの花を配布する活動も中止となってしまいました。

新型コロナウイルス感染症の影響は続いています。感染予防策をとりながら、11月の晴れた日の朝に役場敷地にある花壇や駐車場入口付近にパンジーの植栽活動を行いました。マスクを着用し、人と人の距離に注意しながらの活動でしたので、いつもの活動とは違って静かな作業となりましたが、きれいに配列された黄色や紫色、白色など、色とりどりの花を見ると心が和みます。

花いっぱい運動を通じて、暗い世の中を少しでも明るく地域の花を絶やさないように新しい生活様式を取り入れ、新型コロナウイルス感染症予防と地域活動の両立を図りながら、活動を続けていきたいと思っております。

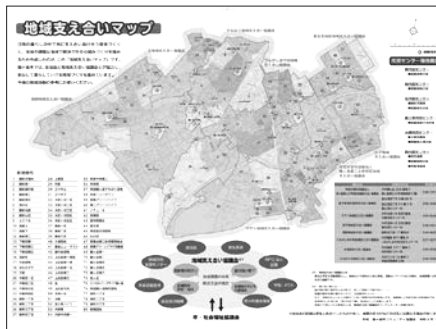


「地域支え合いマップ」の作成(鶴ヶ島市コミュニティ協議会)

鶴ヶ島市コミュニティ協議会では、安心して暮らしていける地域づくりを進めるため、「地域支え合いマップ」を作成しました。

このマップには、鶴ヶ島市における共助の仕組みを分かりやすく記載しており、自治会への加入促進や地域活動に対する市民意識の醸成等を図っています。さらに、市内全自治会の区域を色分けして示したほか、災害の発生に備えた避難場所や避難所、市民サークルやボランティア活動の拠点となる市民センター、より身近な地域施設である自治会館等を表示するなど、市民の暮らしに役立つ情報を記載しました。

このマップが多くの市民に活用されるよう、自治会に配付するほか、庁舎や駅等への掲示などにより広く周知します。そして、今後もコミュニティ活動を総合的に展開していくことで、市民福祉の向上に寄与していきたいと考えています。



広報誌「ふれあいの街」の発行(白岡市コミュニティ協議会)

白岡市コミュニティ協議会では、10月と3月に広報誌「ふれあいの街」を発行しています。30年以上発行している歴史ある広報誌で、行政区を通じて全世帯に配布をしています。

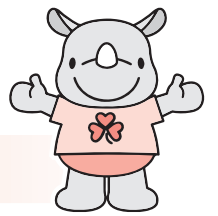
今年度は10月に第65号を発行しました。

例年では10月に実施する当協議会主催の「白岡ふるさとまつり」のPR記事をメイン記事として掲載しましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からイベントを中止としました。

そのため、第65号は前年の活動内容と白岡市の協働を担っている構成団体の活動内容のPR記事を掲載することで、我々の活動を改めて周知することができました。

また、本会報は全世帯を対象に配布しているため、広報誌の一部に防犯について啓発する記事を掲載することで、地域の安全啓発の一役も担っています。





川口信用金庫

川口信用金庫は地域とともに歩む金融機関として、職員一人ひとりが地域社会の一員としての自覚を持ち、地域経済の活性化に積極的に取り組んでおります。

今年のコロナ状況下において多大な影響を受けている飲食業、小売業等の売上向上に寄与する目的で「かわしん超トクパスポート」を作成しました。この冊子は取引先を1ページに1社（店）紹介し掲載されたお店に提示することで様々な特典が受けられるものです。作成にあたり当金庫お取引先に広く掲載を募り、表紙のデザインもお取引いただいているデザイン会社に依頼する等、地域支援色を強く打ち出した冊子になっています。各支店を通してお客様へ、併せて当金庫職員全員へ配布し、飲食店や小売店等に足を運んでもらい、地域経済の活性化に一役買ってもらいたいとの思いが込められています。

皆様とともにこの難局を乗り越え、安心して過ごせる日が一日も早く訪れることを心から願っています。



埼玉新聞社

弊社は1944年の創刊以来、「われわれは新聞本来の使命に生き、それを通じて、広く埼玉県民に奉仕する」を社是に76年の歴史を歩んで参りました。

生活に密着した地域情報はもちろん、全国ニュースも県内から見た独自視点で報道するなど「地元のことなら埼玉新聞」と県民の皆様から高い評価をいただいております。少子高齢化が進むなか、地域コミュニティの維持・発展は、私たちの重要な使命です。

今年は埼玉県誕生150年や埼玉の偉人・渋沢栄一翁が主人公のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の放送などエポックメイキングな年です。弊社も埼玉県の多彩な

魅力を紙面や事業を通じて積極的に発信し、地域の皆様と一緒に今年1年盛り上げていきたいと思います。コロナとの闘いはまだまだ続きますが、地域経済・文化の灯を消さないよう県民の皆様へ寄り添って参ります。



▲募集した手づくりマスクを寄贈した「手づくりマスクの輪プロジェクト」贈呈式



▲埼玉県150年や渋沢栄一翁を顕彰するキャンペーンを予定

(公財)埼玉県公園緑地協会

(公財)埼玉県公園緑地協会は、県内公園等の管理運営を通じて、緑豊かな憩いの環境を創造するとともに、スポーツやレクリエーション等の場を提供し県民の健康の増進に寄与することを目的としています。地域の核となる公園を目指し、ボランティアを中心とした草花の植栽や花壇の維持管理の実施など、地域との連携、協働事業を進めています。また、大宮第二公園に設置した自動販売機の売上の一部を彩の国コミュニティ協議会へ寄付させていただいております。最近ではこども動物自然公園（東松山市）に「世界一しあわせな動物」と言われるクオッカを、さいたま水族館（羽生市）にコツメカワウソを導入するなど、公園の魅力アップにも注力しています。引き続き、感染症等予防対策を着実に実施して、皆様安心してご利用いただける公園運営に努めて参ります。



▲ボランティア活動(大宮第二第三公園)



▲世界一幸せな動物クオッカ(こども動物自然公園)